

平成 27 年度第 2 回花巻市教育振興審議会 質疑応答

3 報告事項

・報告資料 2 について

照井委員 学習定着度状況調査について、県平均と花巻市の平均を比較しているが、県で把握している成績のいい地域はどこであるか、分かれば教えてほしい。県で上位の学校の取組みを取り入れていくのが大事ではないか。

菅野小中学校課長 県の平均については情報をもらえるが、他市町村の情報は実際にもらうことができない。担当者が集まる研修会等で、交流しながら情報を得ることしかできない。いただいた意見を参考にしながら、情報交流で参考になる市町村の取組みを聞いていきたい。

照井委員 前に矢沢小学校に行った時、運動の話であったが、花巻地域の中で一番良いという話を聞いた。県と比べると平均以下であるのに、この地域では良いからといって、必ずしも良いとは限らない。視点の持ち方を変えれば、内容がレベルアップすると思う。

・報告資料 3 について

三井委員 問題行動やいじめの数字が激減とっていいくらい減っている。具体的な取組みを行ったのか。数字的に成果が上がったのはなぜか。

菅野小中学校課長 何点か要因が考えられる。まずは、各学校、特に中学校で何か問題等が起きた場合に、担任が抱え込まず、担任から学年主任・生徒指導主事・副校長・校長へ報告し、チームですぐ対応することを花巻市で進めている。個人で抱え込まず、学校という組織での対応が一つあげられる。

市教委で対応してきたことと言えば、不登校と直接関係するが、スクールソーシャルワーカーという生徒支援員 6 名を課題のある学校に継続して配置し、不登校の子どもに対応してもらっている。実際に家庭訪問も行っている。また、適応指導教室である風の子広場では、様々な相談を受入れており、困った時に保護者が相談しやすいような体制づくりをしている。その他に、スクールガードリーダーの働きがある。地域で見守っていくという、スクールガードの方々やその方々を指導する立場であるスクールガードリーダーの働きかけが非常に大きいと感じている。さらに、生徒指導連絡協議会では、警察との連携を強く進めてきた。生活指導連絡協議会の中で、警察の生活安全課長から様々な情報をいただいている。今はどちらかというと情報モラル関係の検証を受けているところだが、その時その時の大事なことについて警察から情報を提供いただき、各校で取り組んでいる。

三井委員 データだけが先行してしまうと、潜在的な数字に表れない子どもたちが出てくることもあると思うので、よろしくお願ひしたい。

4 審議

(1) 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

・1-(1)-10 まなび交流学習事業について

坂本委員 子どもたちの反応はどうであったか。

菅野小中学校課長 子どもたちからアンケートを取ったところ、9割以上の子どもたちから、交流が楽しかったという回答を得られた。普段できない活動ができたり、友達の数が増えたりと、交流活動自体が楽しかったのでまたやりたいという回答が多く寄せられた。

・ 1 活力と特色ある学校教育の推進の【保育・教育の充実】について

小野寺委員 家族でニコニコチャレンジについて、私も保育園の企画で、子どもと一緒に早起きの計画を立てたり、朝の散歩の目標を立てたりして一緒に取り組んでいるところである。忙しい核家族が増えてきているということで、忙しさの中でもこういった無理なくできる目標を立てるという意味では、家庭で教育するための支援策としてとても好評であり、園でも取り組んでいる企画の一つだと認識している。そこで、市内の園での実施状況や効果等で把握していることがあれば教えてほしい。

小田中こども課長 家族でニコニコチャレンジについて、市内の保育園・幼稚園に在籍する年長児を中心にとことだが、弟や妹がいれば小さいお子さんも一緒に家庭で取り組んでもらっている。その状況についてアンケート調査を実施し、89%の保護者の方から回答をいただいている。取り組み方として、一番取り組みやすいのがいいのではないかとということもあり、早寝早起きや朝食を摂ること、いわゆる早寝早起き朝ごはんの部分について、より多くの家庭が取り組んでいる。その他には、あいさつが多い。それから、メディアの部分では、意図的ではあったがこういった項目にも取り組んでみてはということ、こちらから提案した項目もあり、あまり数は多くなかったが取り組んだ家庭もあった。アンケートでは、基本的な生活習慣の定着について、好評であり、家庭でも効果があるという回答を得られた。テレビ視聴・ゲーム使用のルールや手伝いについては、大人の働きかけが弱く、実態も子どもに身につけるまでには至っていないという状況である。

・ 1-(1)-6、7 保育所保育環境充実事業及びはなまき保幼一体研修事業について

小野寺委員 安全点検・安全管理の点について、保育園にある遊具や危険箇所の点検や検査について、公立私立それぞれ対応方法はあると思うが、教育委員会としての、遊具の指導や調査があれば教えてほしい。併せて、遊び方の指導や安全管理の部分について、研修の中に盛り込まれているのか教えてほしい。

小田中こども課長 遊具の調査については、年に一回専門業者が点検を行い、修繕が必要な場合は適宜行っている。撤去が必要な場合は撤去の対応をしている。

また、安全の危機管理部分の研修については、今年度早々に各保育園・幼稚園を対象に危機管理研修を行った。現在、園における危機管理のマニュアルを見直し、作成中である。完成しだい、法人立保育所等も含めて、参考に配布したいと考えている。

子どもへの安全教育については、保育園は低年齢から入所しているため、養護という部分では保育士の配慮事項であるため、研修の充実が必要である。研修を活かして、研修しっぱなしということではなく、園で月に1回は会議を設けることになっているので、その中で再度確認しながら子どもたちへの配慮をしていく。また、環境についても確認を続けていく。それから、年齢が上がって3歳児～5歳児については、年齢に合わせた安全教育を行い、自分の身を守るという部分については、各園の保育計画の中で実践されており、それぞれの園の保育内容に盛り込まれて取り組んでいる。

照井委員 年に一回業者を呼んで施設点検というのは、公立の園だけか。

小田中こども課長 そうである。

照井委員 私の園では、施設については、主任が毎月あるいは年内に日にちを決めて、子どもの安全を見ながら、自分たちで点検を行っている。問題がある場合は、業者を呼んで修繕をしている。

・ 1 の成果指標について

三井委員 不登校児童生徒の出現率の矢印の向きについて、数字的には矢印の向きが合っているが、目標値に対しての成果については、矢印の向きが逆ではないか。あくまでも数字で見るとは、もしかたないが、何となく違和感がある。

市村教育部長 不登校児童の出現率については、下げることを目標とする指標であるので、数値が下がった場合は表記とは逆に成果が上がったことなので、矢印が右上を向くように修正しなければならない。表記されるべき向きと逆の向きで示されているので、改めて修正して留意していきたい。

(2) 花巻市教育振興基本計画実施計画(平成 27 年度～平成 29 年度)(案)について

・ 預かり保育について

照井委員 私立幼稚園では、国で行っている預かり保育について補助金をいただいている。特別支援についてであるが、幼稚園にも手帳を持っている子どもがいる。預かり保育については、県から補助をいただいているが、特別に市からも配慮いただいているが、手帳を持っている子どもについて、市から上乗せで補助金をいただくというような配慮はしていただけるものか。対象外であるか。

小田中こども課長 今現在は私立幼稚園に入っている障がいをもっているお子さんに対しての補助については、市としてはない。

照井委員 預かり保育について、本来的には市から運営費の部分について大変なご配慮をいただいております。それに甘えるわけではないが、障がいを持つお子さんの分もご厚意をいただけないかという意を込めたお願いである。

小田中こども課長 ご要望ということで伺う。

・ 1-(1)-11 学校給食施設基本方針策定事業について

坂本委員 施設が老朽化していることや働く人の課題等、いろいろな問題があると書いてあり、課題解決に向けた基本方針を策定するための調査を行うということであるが、これは給食を廃止するという視野はなく、継続を根底において課題解決に向かうのか。

菅野小中学校課長 施設が老朽化しているということや職員の関係、給食費の納入状況の関係といった様々なことへの課題をどのようにして解決していけばよいかということについてであり、決して学校の給食をなくすということは考えておらず、これからより良いものにするにはどうしたらよいかということについてである。

・ 1-(2)-3、1-(4)-3 幼児ことばの教室事業について

多田委員 ここ何年かことばの教室に通う対象の子どもが増えているような気がする。そこで、幼児

ことばの教室の取り組みは非常に大切だと実感している。就学前教育と特別支援教育の両方に記載されているが、どちらか一つに記載したほうがいいのではないかと。

岩間教育企画課長 (4)の幼児ことばの教室事業について、再掲という形で掲載しているのは、就学前に限らず、学校に入った後のフォローも継続的に実施されている状況を踏まえて、二重に掲載しているので、ご了解いただきたい。

・ 1 活力と特色ある学校教育の推進について

永井委員 活力と特色ある学校教育の推進とあるが、特色とは他と違って特別なことをするというとか。それとも、特別にここだけ進めていくということがあるのか。特色とはどのようなことか。

菅野小中学校課長 特色ある学校づくりという意味である。地域の中の学校であるので、学校ごとにそれぞれ地域の中でどんな特色を出していくかということである。規模や地域が違う中で、地域の子どもたちの実態を踏まえて、この学校ではこういう特色を出していくということを学校ごとに決める。魅力ある学校、子どもたちが楽しんでくれるような授業づくりをしていくということだったり、復興教育を大事にしていくということであったり、各校ごとの特色ある学校づくりという意味である。

・ 1-(1)-1 小中学校学区再編成等調査事業について

皆川委員 本校の場合、学区外から通っている児童が 40 人以上いる。子どもたちの活動といった時に、地区においていくわけだが、そこに属さない児童がどんどん増えてきている。親御さんの流動性が高まっているという現状があり、車があつてすぐに行ける等の様々な手段が出て、結果的に学区外で動くということが増えてきているような状況がある。

事業概要に掲載されているのは複式学級の解消や統廃合、または今後のこととあるが、流動性の部分、本校は特に多いのかもしれないが、アパート等の存在を念頭に置いて、今後どのように親御さんが動いていくのかということもぜひ検討していただきたい。

(3) 大迫中学校改築事業基本設計について

原委員 全体の構造が分かりにくいので、もう一度説明してほしい。

岩間教育企画課長 グラウンドと校舎に高低差があり、低いほうに校舎を建てて、高いほうに体育館を建てる。よって、校舎の 2 階と体育館が同じ高さになるので、2 階から生徒は出入りをするということになる。

永井委員 現在のグラウンドのところに校舎が建つのか。

岩間教育企画課長 はい。

永井委員 体育館の中にキャットウォークはあるか。

市村教育部長 これは、1 階の平面図であるので記載されていないが、キャットウォークはある。猫しか歩けないような管理用の通路である。

永井委員 練習試合等で選手の親御さんが観戦する場所があればと思って発言した。

市村教育部長 よく学校からも父兄が観覧できるスペースを要望されるが、そうすると、それが床面積に入ること、人が入ることになると消防上のいろいろな設備が必要になるということがある。現在の大迫中学校にもそういうスペースはあるし、湯口中学校でもそういうスペース

がほしいという話があったが、基本的には子どもたちが部活動をできればいい施設である。総合体育館のような大きい施設であれば、観覧席は必要になってくるが、相当経費がかかるということで、今回大迫中学校の体育館は、管理用のキャットウォークは設けるが、観覧席は設けない。実際、西南中学校の体育館は、各種大会に市として対応できるように標準より相当大きい体育館を作ったが、標準に収めようとする観覧席を設けるのは難しい状況である。

(4) 第2期花巻市教育振興基本計画について

菅原委員 日頃感じていることである。中学校1年生の娘がいる。小学生の頃は家庭学習への取り組みを小学校でしっかりやっていただき、着実に勉強が定着して中学校に入った。中学校で部活動に一生懸命取り組んでもらうのは体力・スポーツ面ではいいと思うが、1年生になってから学力が一気に落ちた。よく見ていると、大会前の練習となると19時過ぎにしか帰ってこないような状況で、疲れ果てて帰ってくるので、ご飯をそこそこに食べて普通どおりに勉強しようとしても全然追いつかないようだ。部活動は、何のための部活動なのかと考えてしまう。父母会という中学校の保護者の会の熱の入れ様もすごい。部活動とは関係なく、スポーツ感覚でやっているという校長先生からの話もあり、夜クラブという19時から21時位までの部活動をやっていたりする。部活動に関して見直していただきたい。中学校に入って、今は徐々に慣れてきて生活も落ち着いてきているが、このままさらに過剰になってしまうと子どもたちへの負担がかかる。

菅野小中学校課長 貴重な意見をありがとうございました。先ほど岩間課長から説明があったとおり、「中学校では過剰な部活動による疲れから、授業に集中できない、家庭学習時間を十分に確保できない等の問題を生み、中学生の学力低下につながっている可能性が指摘されており」という文章を入れている。

学力向上アクションプランの中でも、家庭学習の充実について3点の方策の中に入れていく。家庭学習の充実のためには、1日の中学生の生活時間がどのようになっているかが非常に大事であり、その生活時間の中に家庭学習をする時間があるかということから、家庭学習の充実を図りたい。アクションプランの中でも同時進行で進めていきたい。

菊池委員 第2章の基本目標と基本方針について、出だしの3行の説明が非常に大切だと思う。目指す市の姿というのを示しているわけだが、インパクトのあるスローガンや合言葉が必要なのではないか。市民はこういった基本計画を目にすることは少ないし、花巻市の人づくりや子育てが一目見て分かるようなものがあればいいと思う。

例えば、福島県の会津若松市に行くと、あちこちに「あいづっこ宣言」というのが貼られている。学校にはもちろん、公の施設にもある。会津藩の「仕の掟」で「ならぬものはならぬ」のような、「いじめをしてはならない」「年上の言うことは聞きなさい」等のことが、市全体に浸透して子育てや教育が進んでいる。

では、花巻の人づくりや教育はどうか。一言で言えば何なのかというようなことが出てくれば、市全体で取り組むことにもつながるのではないかと。極端な話であるが、例えば、県の生涯学習センターにマナビィという蜂のキャラクターがあるが、一つ見るだけで共通のイメージが膨らむ。花巻のデザインなりロゴなりあるいはスローガンなりが見えてくればいいと思う。

坂本委員 中学校の学力が低下しているのは非常にショックであった。全国の学力検査では秋田県が上位であり、花巻でも秋田へ視察研修には行っていると思うが、同じような中学生がなぜ秋田のほうができて、花巻のほうができないのかという分析をして、なんとか学力を上げてほしい。菊池委員の会津に学ぶという話があったが、同じ東北で頑張っている秋田にも学ぶところが大きいと思う。研修に行った結果をぜひ活かしてほしい。

佐藤教育長 秋田では随分長い時間をかけて取り組んできた。例えば、岩手県では教育振興運動が 50 年近くになるが、秋田県もこれを取り入れてふるさと運動を展開し、地域・PTA・学校の一体化については秋田独特のやり方がある。花巻あるいは岩手と違う地域の特性、例えば、3 世帯で生活している家族が非常に多く、家に帰っても必ず誰かがいて家庭学習をする、それから、近くの子どもたちにもどんどん声をかけていくといった基本的な生活習慣の支えがある。また、かつては秋田県も岩手県の今以上にスポ少が過熱しており、夜の 21 時まで行っていた時期もあったが、そういう面の見直しをした。いろいろな要素がある。さらに、授業の改造、先生方の思い切った授業についての取り組みや指導力の育成、家庭学習等トータルでの結果である。まずは、市の学力向上アクションプランを立ち上げたので、目標達成のための方策 3 点から入っていこうと思う。幸い、花巻でも生徒指導に関すること、不登校についてはまだ課題があるが、全体的には問題行動等が少なくなってきた。学習は生活からということを見ると、生活面はある程度落ち着いてきた。次はいよいよ学習である。何よりも楽しい学校づくりをしないと、不登校の問題も減らない。そういった個別の対応をしながら、連携して全体で特色ある教育活動をしていく。まさしく、次期の教育振興基本計画がグランドデザインである。秋田県を一つのモチーフとしながら、もっともっとたくさんのご意見をいただければと思う。あくまでこれは素案であるので、菊池委員からいただいた意見のように、はっきり見えるような個性的な取り組みについてご意見をいただければと思う。

永井委員 小学生の体力が下がっているが、市内と市外で違いがあるということではなく、平均的に低いのか。大人の場合だと、岩手県と東京都を比べると岩手県のほうがはるかに落ちる。都会では歩くことが多く、持久力が高い。子どもたちを見ていると、ほとんどの子どもが親に学校の校門近くまで送迎をしてもらっており、町場より離れた学校は歩いていない状況が多いのではないかと。

佐藤教育長 小学校でみると、男の子の体力が平均より劣っている。ここ何十年かでみると、岩手県や花巻の課題は走力である。あくまで平均だが、走るのが遅い。もう一つは、小さい頃からの多様な体を使った遊びが足りないということ。小学校に入っても、外で遊んでいる子どもが少ない。今話があったように、歩くということが少ない。そういったことが基本にある。まずやれることは、校内で学校の教育課程の中で、どれだけ運動を保証してあげられるか。地域あるいは家庭にお願いして、どういったことをしてもらえるか。まず今は、保育園・幼稚園でのコーディネーショントレーニングをやりながら、小さいうちから子どもたちに運動するということの楽しさを身に着けること、運動が必要だということへの関心・理解を保護者の方にもってもらえるところから始める。他地域と比べるとどうかということについては、県との比較しかできない。資料を入手しながら、取り組み事例についても集めていきたい。